

**2023年3月期第2四半期**

# **決算説明資料**

株式会社HCSホールディングス

2022年11月29日

証券コード：4200  
東京証券取引所 スタンダード

**1** 会社情報

**2** 2023年3月期 第2四半期決算概要

**3** 2023年3月期 通期業績予想

**4** 株主還元

**5** 中期経営計画の進捗

1

# 会社情報

# 会社概要

社名	株式会社HCSホールディングス (HCS HOLDINGS CO.,LTD.)
設立	2016年7月
資本金	189百万円 (2022年9月30日現在)
所在地	〒135-0016 東京都江東区東陽二丁目4番38号
従業員数	単体：36人 連結：428人 (2022年9月30日現在)
役員	取締役会長 宮本 公 代表取締役社長 加藤 俊彦 専務取締役 竹村 正宏 取締役 長嶋 博 取締役 畠山 幸雄 取締役 古池 信男 取締役 天野 進 社外取締役 渡邊 裕之 社外取締役 川尻 恵理子 常勤監査役 大久保 利幸 社外監査役 吉村 潤一 社外監査役 大竹 義紀
上場取引所	東京証券取引所 証券コード：4200 /市場：スタンダード (上場日 2021年6月24日)

子会社	株式会社日比谷コンピュータシステム 株式会社アイシス 株式会社日比谷リソースプランニング 株式会社ビジー・ビー 株式会社オートマティゴ HCS Vietnam Co.,Ltd (2022年11月7日清算終了)
関連会社	株式会社ラバブルマーケティンググループ 証券コード：9254 /市場：グロース市場 (上場日 2021年12月21日)

# 沿革

- 1970年10月** リッカー(株) (大手マシンメーカー) の電算センターを前身とし、同社の100%出資により(株)日比谷電算センターを設立
- 1973年4月** (株)日比谷電算センターが(株)日比谷コンピュータシステムに商号変更
- 1999年4月** ERP市場の拡大を見据え(株)日比谷コンピュータシステムがERP事業を開始
- 2013年7月** (株)サン情報が(株)アイシスに商号変更 (同年4月に(株)サン情報が(株)インテリジェント・エスアイ・サポートを吸収合併)
- 2013年10月** (株)日比谷コンピュータシステムがSalesforceビジネスを開始 (Salesforceコンサルティングパートナー契約を締結)
- 2014年8月** 新事業としてデジタルマーケティング事業に参入するため、(株)コムニコ(現(株)ラバブルマーケティンググループ)の株式取得(関連会社化)
- 2016年2月** (株)ビジー・ビーを企業買収により子会社化しデジタルマーケティング事業を開始
- 2016年7月** **経営資源の効率的活用を図ることを目的に(株)HCSホールディングスを設立し純粋持株会社形態に移行**
- 2016年10月** 事業運営の効率化と競争力強化のため、(株)日比谷リソースプランニングが(株)日比谷コンピュータシステムから吸収分割によりERP事業を承継 (同年7月に(株)日比谷リソースプランニングを設立)
- 2018年4月** デジタル技術を活用した新サービスの立ち上げのため、(株)日比谷コンピュータシステムから分割により(株)オートマティゴを新設し、住所マスター事業およびBPO事業を承継
- 2021年6月** **(株)HCSホールディングスが東京証券取引所JASDAQスタンダード市場に新規上場 (2022年4月、東京証券取引所の市場区分見直しにより、スタンダード市場に移行)**
- 2021年12月** 関連会社の(株)ラバブルマーケティンググループが、東京証券取引所マザーズ市場に新規上場 (2022年4月、東京証券取引所の市場区分見直しにより、グロース市場に移行)
- 2022年4月** (株)アイシスが(株)日比谷コンピュータシステムからSalesforce事業を吸収分割

**私たちは、ICTを人間の良きパートナーとして活用し、  
日本の「少子高齢化・人口減少」「環境・資源問題」などに取り組み、  
「課題解決先進国ニッポン」の持続可能な成長に貢献すると共に、  
その技術を世界に発信します。**

HCSホールディングスのICTに対する考え方は明確です。それは、「ICTを人間の良きパートナーとして活用する」というものです。

いま日本は、「少子高齢化・人口減少」及び「環境・資源問題」という重要な社会課題を抱えています。

私たちは、こうした社会課題に対し、ICTの力で企業と人の在り方をさらに進化させ、「課題解決先進国ニッポン」の持続可能な成長に貢献するとともに、ここで培われる技術やソリューションを世界に向けて幅広く発信していくことをミッションとして掲げています。

このミッション達成のため、情報サービス事業、ERP事業、デジタルマーケティング事業の3領域における社会課題を解決する技術者集団が、50年以上の歴史で培ってきた実績と知見を活かして付加価値の高いサービスや最適なソリューションを提供し、ソーシャルグッドを生み出すことにより、持続可能な社会を実現していきます。

※ICT：「Information and Communication Technology（情報通信技術）」の略で、通信技術を活用したコミュニケーションを指します。情報処理だけではなく、インターネットのような通信技術を利用した産業やサービスなどの総称です。

# 会社構成

(株)HCSホールディングス 2021/6/24  
東証JASDAQ  
スタンダード上場  
(現・東証スタンダード市場)



2022/4/1  
HCSからISISへ  
Salesforce事業を集約化



(株)日比谷  
コンピュータシステム  
(HCS)

(子会社/100%)



(株)アイシス  
(ISIS)

(子会社/100%)



(株)オートマティゴ  
(AMG)

(子会社/100%)



HIBIYA  
RESOURCE  
PLANNING

(株)日比谷  
リソースプランニング  
(HRP)

(子会社/100%)



Busy Bee

(株)ビジー・ビー  
(BB)

(子会社/80%)



(株)ラバブル  
マーケティング  
グループ  
(LMG)

※ (関連会社/25.2%)

2021/12/21  
東証Mothers上場  
(現・東証グロース市場)

事業会社

セグメント

サービスライン

パートナー

情報サービス事業

ERP事業

デジタル  
マーケティング事業

- ① システムインテグレーションサービス
- ② マスターファイルソリューションサービス
- ③ プラットフォームソリューションサービス

- ④ SAP導入支援・開発サービス
- ⑤ リソースプランニングサポートサービス (RPSサービス)

- ⑥ マーケティングソリューションサービス
- ⑦ パッケージソリューションサービス

Salesforce

Infor

OutSystems

SAP

Google

※ LMGへの持株比率(HCSによる保有)は、  
2022年9月30日現在

サービスを提供する会社



## ソフトウェア開発

### 業務ソフトウェアの設計・開発・保守及び運用を支援

得意分野：電力・航空・鉄鋼の基幹システム開発

- 例：
- －電力／経理システム（Oracle EBS）など
  - －航空／国内線・国際線航空券予約システムなど
  - －鉄鋼／生産管理システムなど

### システムインテグレーションとは …

顧客の使用する情報システムの企画、設計、開発、構築、導入、保守、運用などを一貫して請け負うサービスをいいます。



サービスを提供する会社



## Salesforce開発支援

- **Salesforce** (顧客管理ソリューション)
- **MotionBoard/SVF for Salesforce** (ダッシュボード/帳票ソリューション)

システム導入から定着化、運用・保守まで

例： - Salesforce社、ウイングアーク1st社紹介案件など

Salesforce  
資格取得数 **81** 資格  
(2022年9月末時点)

※資格取得数は当社グループ合計

## Salesforceとは …

米国Salesforce社が提供しているクラウドサービスプラットフォームです。

営業支援 (SFA) ・顧客管理 (CRM) などの機能を中核に、目的に合わせて複数の製品を組み合わせて使え、業種や企業規模を問わず広く選ばれ、世界トップレベルの認知とシェアを誇っています。



## 住所マスターをはじめとした様々なソリューションで顧客情報管理をサポート

### ソリューション

#### 住所マスター

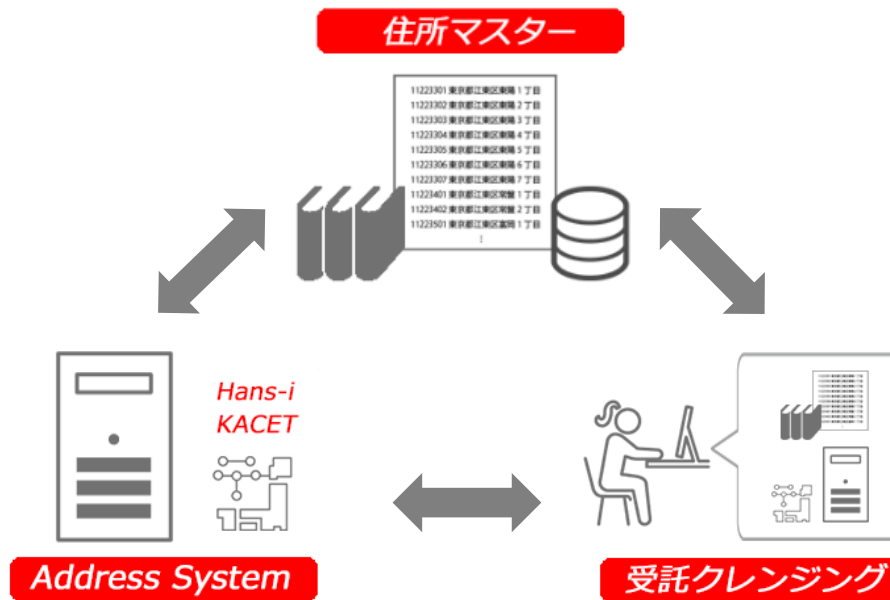
- 国土行政区画コードマスター
- 新国土行政区画コードマスター
- 全国町・字ファイル
- 金融機関マスター
- 郵便番号マスター

#### Address System

- KACET システム
- KACET11
- HANS-i

#### 受託クレンジング

- 受託住所クレンジング作業
- エラー住所データの抽出
- エラー住所データの修正



住所データの地名や番地などを最新化します

多くの金融機関様や企業様にご採用頂いている実績を活かし、「住所マスター（辞書）」を活用しエラー住所の判別を行う「KACET システム」や、受託による住所の「受託クレンジング」作業等、住所の変更や修正に係る業務全般を請け負っております。

## 金融機関、小売業を中心に多くのユーザー様が採用



## CO2排出量可視化支援ソリューション

- CO2排出量算定システム化
  - CO2排出量算定支援サービス
- GHGプロトコルに則った測定を実施



### GHGプロトコルとは …

温室効果ガス（Greenhouse Gas : GHG）の排出量を算定・報告する際の国際的な基準です。GHGプロトコルイニシアチブという国際機関から公表され、現在、温室効果ガス排出量の算定と報告の世界共通基準となっています。



### ローコード開発ソリューション

- OutSystems導入支援
- OutSystemsによる超高速システム開発

#### ローコード開発とは…

手作業によるコードの記述を最小限に抑えることにより、アプリケーションを高速開発する手法です。画面部品やロジック（処理手続き）部品を組み合わせることによって、開発作業を自動化・省力化します。

#### OutSystemsとは …

OutSystems社製ローコード開発プラットフォームであり、世界中の多くの企業がOutSystemsを採用しています。

従来のコーディング



ローコードプラットフォーム



- ソフトウェア開発の自動化
- ビジュアルでの高速開発
- 変更が容易
- スキル関係なく簡単に学べる



## グローバルサプライチェーンソリューション

### ● Infor Nexus導入支援

Infor Nexusの国内初のアライアンスパートナー契約締結



### Infor Nexusとは ...

米Infor社が提供する世界最大規模のグローバルサプライチェーンプラットフォームです。企業とサプライヤー、顧客、キャリアや3PLとのデータ連携を実現し、これまで可視化できなかった企業間のデータを短期間で見える化することができ、グローバルサプライチェーンでの、輸送コスト、輸送リードタイムの短縮、在庫の削減を実現し、顧客サービスの向上と収益向上を図ることができます。

- (4) SAP導入支援・開発サービス／
- (5) リソースプランニングサポートサービス (RPSサービス)



### SAP導入支援・開発サービス

SAPの導入プロジェクトにおけるコンサルタント業務や、SAP保守プロジェクトにおけるユーザー問合せ対応、調査、システム改修提案、実装からテストまでを支援

### リソースプランニングサポートサービス (RPSサービス)

- SAPシステム及び運用支援ツール等の運用保守・ヘルプデスク業務をサポートセンターからリモートにて提供
- SAP教育支援

SAP認定コンサルタント  
資格取得数 **89** 資格  
(2022年9月末時点)

※資格取得数はHRPのみ

### ERP(Enterprise Resource Planning)とは ...

企業が保有する経営資源を統合的に管理する業務システムです。

### SAPとは ...

ドイツのERPパッケージベンダーであり、日本におけるERPシステムのシェアは最大手ベンダーの一社です。



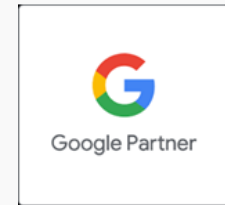
日比谷リソースプランニングはSAPのシルバーパートナーです



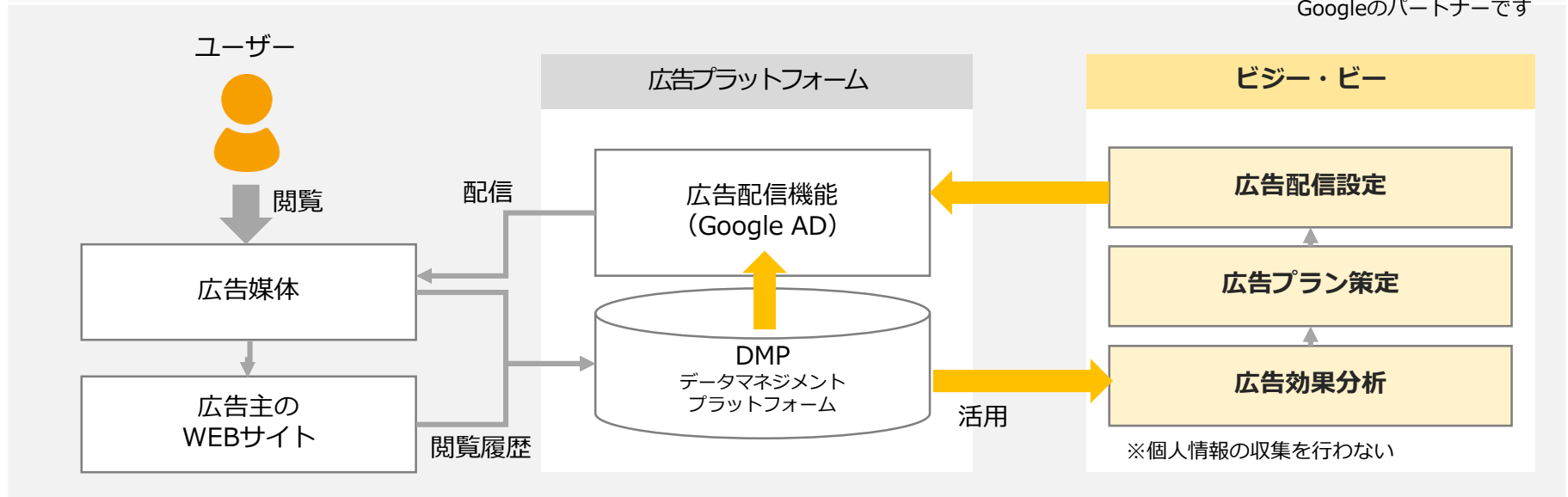
## マーケティングソリューションサービス

### Google、DMPを利用したデジタルマーケティングのコンサルタントサービス

- 広告プラットフォームへ広告配信設定
- 広告プラン策定
- 広告効果分析



ビジー・ビーは  
Googleのパートナーです





## パッケージソリューションサービス

現地調査、施工・製造、保守メンテナンスなどの  
業務改善を支援するパッケージを提供  
(フィールド業務DXを目指す)

タブレットPC、スマホやハンディターミナルで現場担当者の業務負担を簡略化・効率化。  
データ入力や面倒な写真貼付けも簡単に。

### 点検エース for Excel®



全国ビルメンテナンス協会認定の「インスペクション準拠認定」

### 点検エースLite/Handy Lite TA

(Android OS 向け)



#### 特許取得済 特許第6542163号

表計算ソフト（例：Excel®）上の特定のセルへの入力支援及び、入力された情報のファイル内領域への暗号化を行う支援プログラムが特許認定！





## 現場データを「点検エース」で集約・分析を支援

データ（各種メータのデータ、機器チェック項目、写真など）をスマホやタブレットに  
インプット、現場の状況が見える化し、現場の生産性を改善



# (お知らせ) リードプラス社の株式取得



(2022年8月22日、開示済み)  
当社がリードプラス株式会社の普通株式7.06%を取得

## ➤ 投資目的

1. デジタルマーケティング領域への新たな事業機会の確保
2. 当社グループの高度なITスキル人材の確保とグループビジネス機会の拡大



### Tablet Solution タブレットソリューション



点検エースシリーズ

### Marketing Solution マーケティングソリューション

- ✓ 既存お取引様は大手企業
- ✓ **新たに中小法人様を対象領域に**

リードプラス社と  
パートナー契約を締結



- ✓ 独自の広告運用プラットフォーム“LocalFolio”や独自のMA(\*)運用プラットフォーム“Growme”
  - ✓ お取引様は大手企業から中小法人様までさまざま
  - ✓ ロングテール領域に及ぶノウハウ
- (\*)Marketing Automation の略

# 当社グループの特徴・強み

1

## 顧客との長期的な信頼関係に基づく安定的な収益基盤

- 電力・航空・鉄鋼などの大手産業、大手システムインテグレータ、大手コンサルティングファームとの継続的な協力関係を維持
- 住所マスター・金融マスターにより、地方金融機関・大手小売業・官公庁・農漁協等との継続的な契約

2

## 海外有力ベンダーとのアライアンス

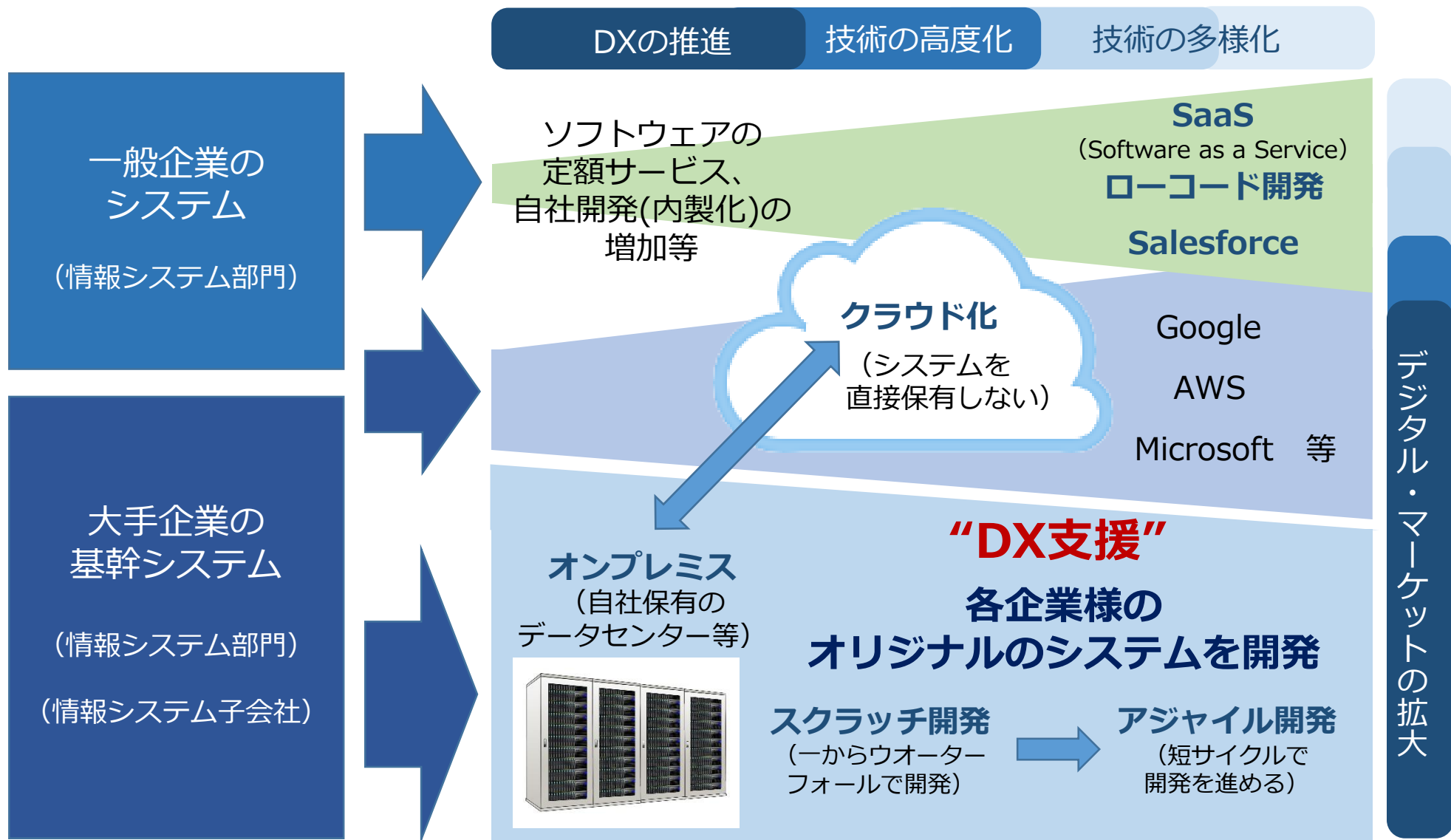
- 海外有力ベンダーと業務提携することにより、その最先端技術を取り入れたサービスを提供（SAP、Salesforce、OutSystems、Infor Nexusなど）

3

## 多様な技術者

- 当社事業は「情報サービス事業」「ERP事業」「デジタルマーケティング事業」の3セグメント
- これら多様な技術者が当社で活躍

# 当社の事業環境（システム開発の環境変化イメージ）



# 当社におけるDX・GXビジネスの推進

## DX・GXビジネスの重点ポイント

### ◎ CO2排出量算定支援

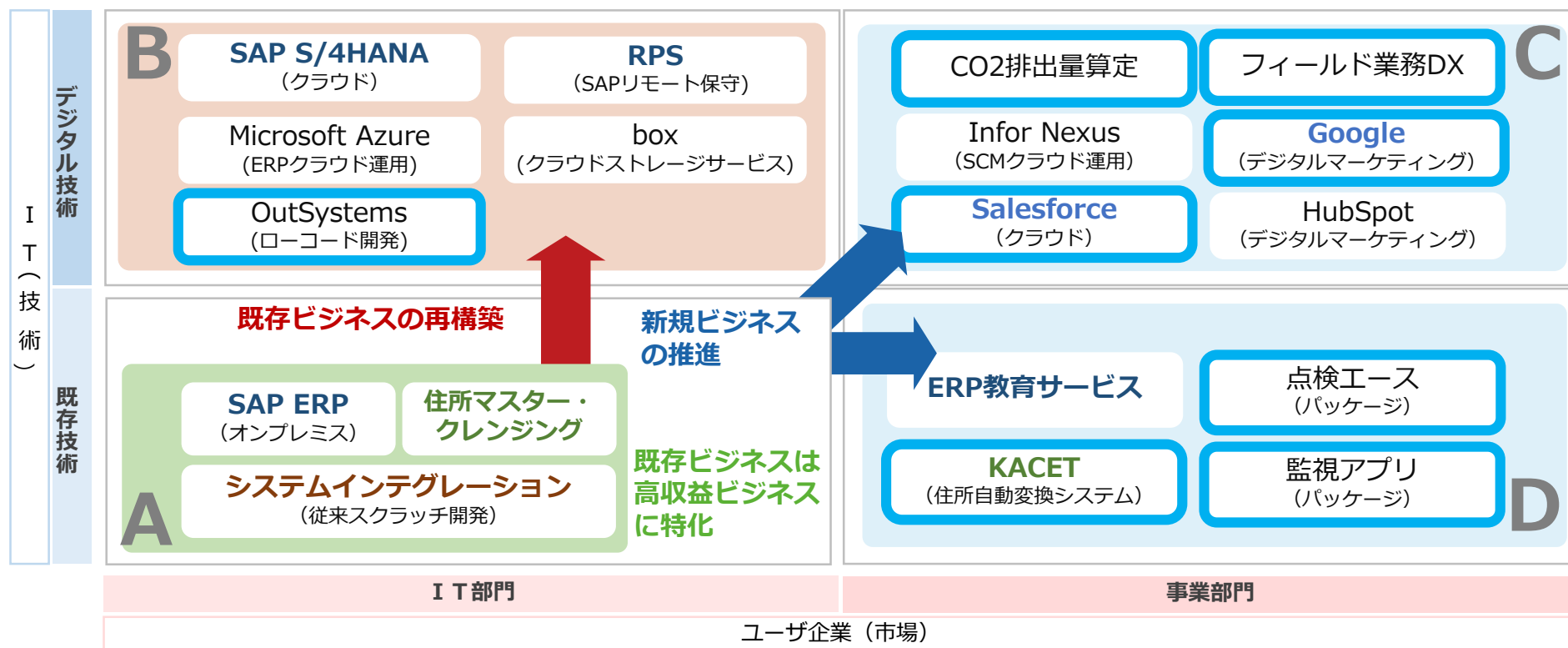
- ・ CO2排出量算定(OutSystems)

### ◎ 生産性向上支援

- ・ ローコード開発 (OutSystems)
- ・ Salesforce

### ◎ フィールド業務DX

- ・ 点検エース
- ・ Salesforce

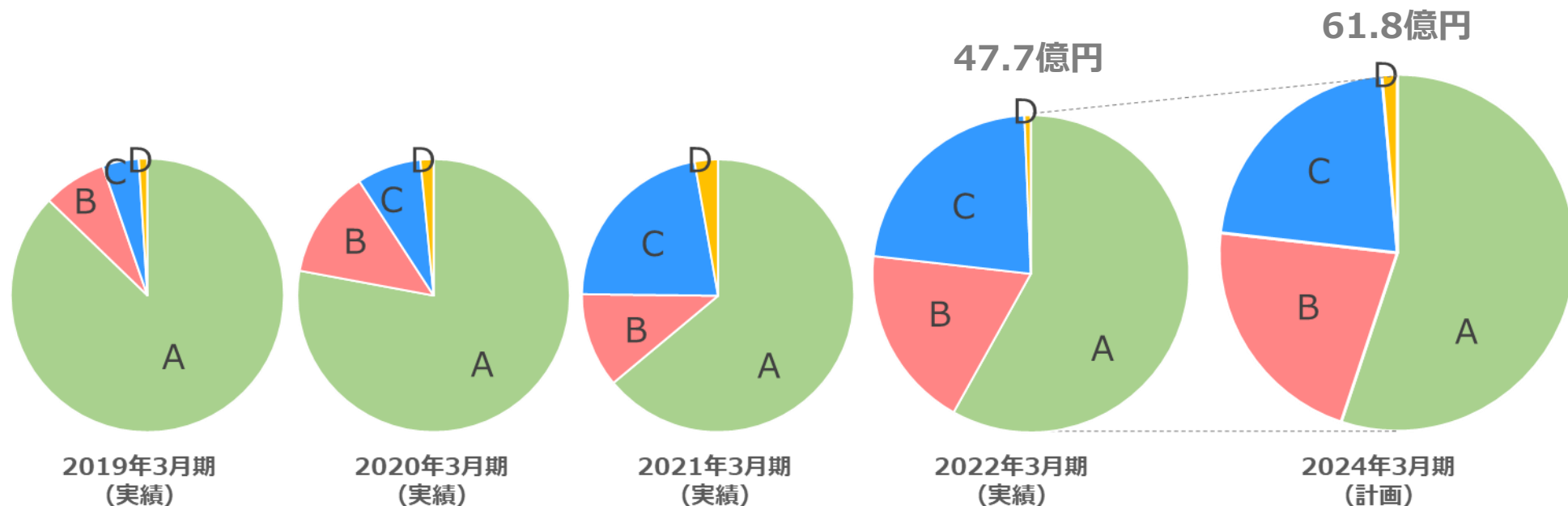


※ A～Dは当社におけるビジネス象限であり、構成比率は次ページをご参照ください。

# ご参考：成長戦略（ビジネスポートフォリオ推移）

## 年度毎のビジネスポートフォリオ（象限A～D）の推移（売上高構成比率）

売上規模と利益率の拡大を目指す



### 象限説明

- A：既存技術／IT部門向け
- B：デジタル技術／IT部門向け
- C：デジタル技術／事業部門向け
- D：既存技術／事業部門向け

### ビジネスの特徴

象限	期間	規模	リスク	利益率
A	長	大	有	低
B,C,D	短	小	少	高

2

## 2023年3月期 第2四半期決算概要

# 2023年3月期第2四半期累計 業績サマリー

- 前年同期比で売上高、営業利益ともに増加
- 前年同期計上の持分法投資利益等の剥落(前期比約▲28.8百万円の変動)により経常利益は減少
- 前年同期には子会社であるHCS Vietnam Co., Ltd.の清算に伴う法人税等調整額により35百万円の益計上があったが、今期は同様の要因なし

単位：百万円

	22/3期2Q	23/3期2Q	前年同期比	
	累計	累計	増減額	増減率
売上高	2,239	2,397	158	7.1%
営業利益	139	143	3	2.5%
経常利益	175	154	▲ 20	▲11.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	132	76	▲ 56	▲42.2%
1株当たり当期純利益	55円71銭	28円54銭	-	-



# 連結損益計算書

単位：百万円

	22/3期2Q	23/3期2Q		前年同期比		主な要因
	累計	累計	売上比	増減額	増減率	
売上高	2,239	<b>2,397</b>	100.0%	158	7.1%	
売上原価	1,464	<b>1,557</b>	65.0%	93	6.4%	
売上総利益	774	<b>840</b>	35.0%	65	8.5%	人材育成関連費用(新卒採用、教育関連等)および情報システム整備による増加
販管費	635	<b>697</b>	29.1%	61	9.8%	
営業利益	139	<b>143</b>	6.0%	3	2.5%	前年同期に計上した持分法による投資利益および助成金収入の今期剥落
営業外収益	76	<b>46</b>	1.9%	▲ 29	▲ 39.0%	
営業外費用	40	<b>35</b>	1.5%	▲ 5	▲ 13.8%	今期に持分法投資損失を計上した一方、前年同期に計上した上場関連費用は今期計上なし
経常利益	175	<b>154</b>	6.5%	▲ 20	▲ 11.8%	
親会社株主に帰属する当期純利益	132	<b>76</b>	3.2%	▲ 56	▲ 42.2%	前年同期はHCSVの清算に伴い法人税等調整額(益)を計上、今期はこの要因が消滅

# 連結貸借対照表

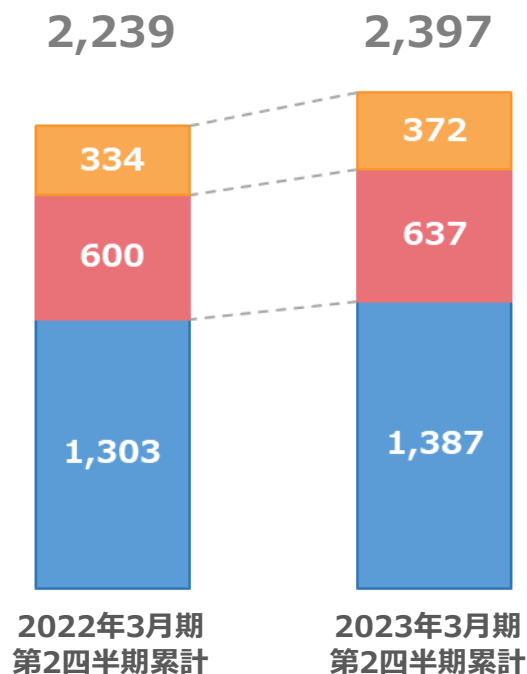
単位：百万円

	22/3 期末	23/3期 2Q	前年度末比		主な要因
			増減額	増減率	
資産合計	4,731	4,541	▲ 189	▲4.0%	
流動資産	2,508	2,218	▲ 290	▲11.6%	グループ外事業会社の株式取得、 および配当金支払等により減少
現金及び預金	1,733	1,542	▲ 190	▲11.0%	
売掛金及び契約資産	681	572	▲ 108	▲16.0%	
仕掛品	9	2	▲ 7	▲76.1%	
その他	84	100	16	19.3%	
固定資産	2,222	2,323	101	4.6%	
負債合計	1,081	866	▲ 214	▲19.8%	買掛金・未払法人税等が減少
流動負債	1,009	806	▲ 203	▲20.1%	
固定負債	71	60	▲ 11	▲15.4%	長期借入金が減少
純資産合計	3,650	3,674	24	0.7%	親会社に帰属する当期純利益の 計上により増加
負債純資産合計	4,731	4,541	▲ 189	▲4.0%	
自己資本比率	76.1%	79.7%	-	-	

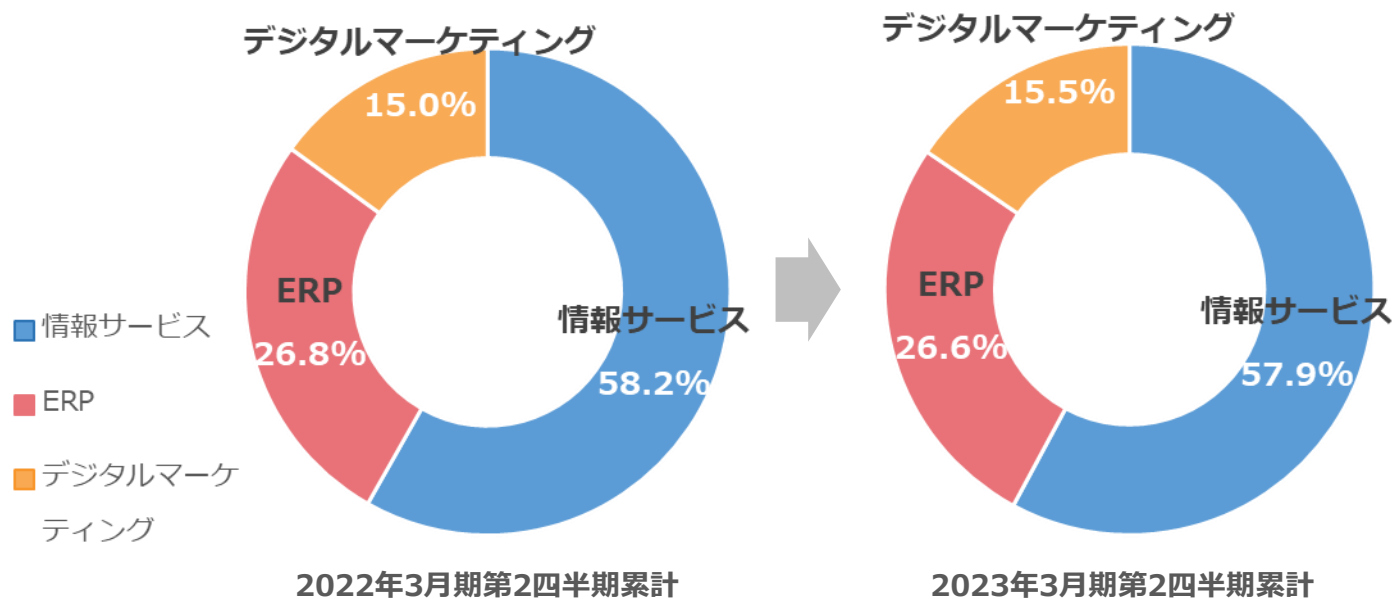
# セグメント別売上高構成

## セグメント別売上高

単位：百万円



## セグメント別売上高構成



### 概況

- 「情報サービス」「ERP」とも案件は受注が堅調に推移
- 「デジタルマーケティング」案件は引続き受注が好調のため、前年比で比率上昇

3

## 2023年3月期 通期業績予想

# 2023年3月期 業績予想

## 業績予想

- ✓ 通期予想は期初予想から変更なし
- ✓ 各事業セグメントごとに今期予算の確実な達成を目指す
- ✓ 今後の経済環境・受注環境等の変化を慎重に見定める姿勢を維持

単位：百万円

	22/3期	23/3期	前年同期比	
	通期	通期	増減額	増減率
売上高	4,779	5,446	667	14.0%
営業利益	414	460	45	11.1%
経常利益	471	516	44	9.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	347	315	▲ 31	▲ 9.1%
1株当たりの当期純利益	137円74銭	117円40銭	-	-

4

## 株主還元

# 配当の状況

利益配分につきましては、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つと考えており、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続して実施していくことを基本方針としております。

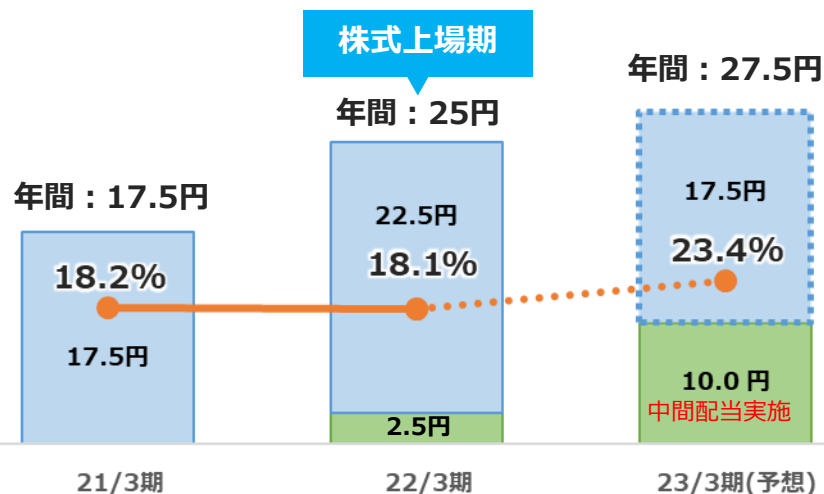
2023年3月期の年間配当予想につきましては、1株あたり中間配当10.0円、期末配当17.5円により年間配当金は27.5円を見込んでおります。

## 配当金内訳

	21/3期	22/3期	23/3期 (予想)
中間配当	—	*2.5	**10.0
期末配当	17.5	22.5	17.5
<b>合計</b>	<b>17.5</b>	<b>25.0</b>	<b>27.5</b>
配当性向	18.2%	18.1%	23.4%

- (\*) 2022年3月期の中間配当2.5円は、株式上場記念配当であります。  
 (\*\*) 2023年3月期の中間配当10.0円は、2022年11月14日開催の取締役会において決議済であります。

## 1株当たり配当金の推移



- 中間配当    ■ 期末配当    ● 配当性向
- (注) 予想配当性向につきましては、2022年11月14日開催の取締役会において決議された「自己株式取得」について、その買付期間が終了していませんので、取得見込株式数は考慮していません。

# 自己株式取得を決議

(2022年11月14日、取締役会決議 開示済み)

## 自己株式取得に係る決定事項

### 1. 自己株式取得を行う理由

株主への利益還元と資本効率の向上を図るため

### 2. 取得に係る事項の内容

- (1) 取得対象株式の種類 : 当社普通株式
- (2) 取得し得る株式の総数 : 45,000株 (上限)
- (3) 株式の取得価額の総額 : 5,000万円 (上限)
- (4) 取得期間 : 2022年11月15日～2023年2月28日
- (5) 取得方法 : 東京証券取引所における市場買付



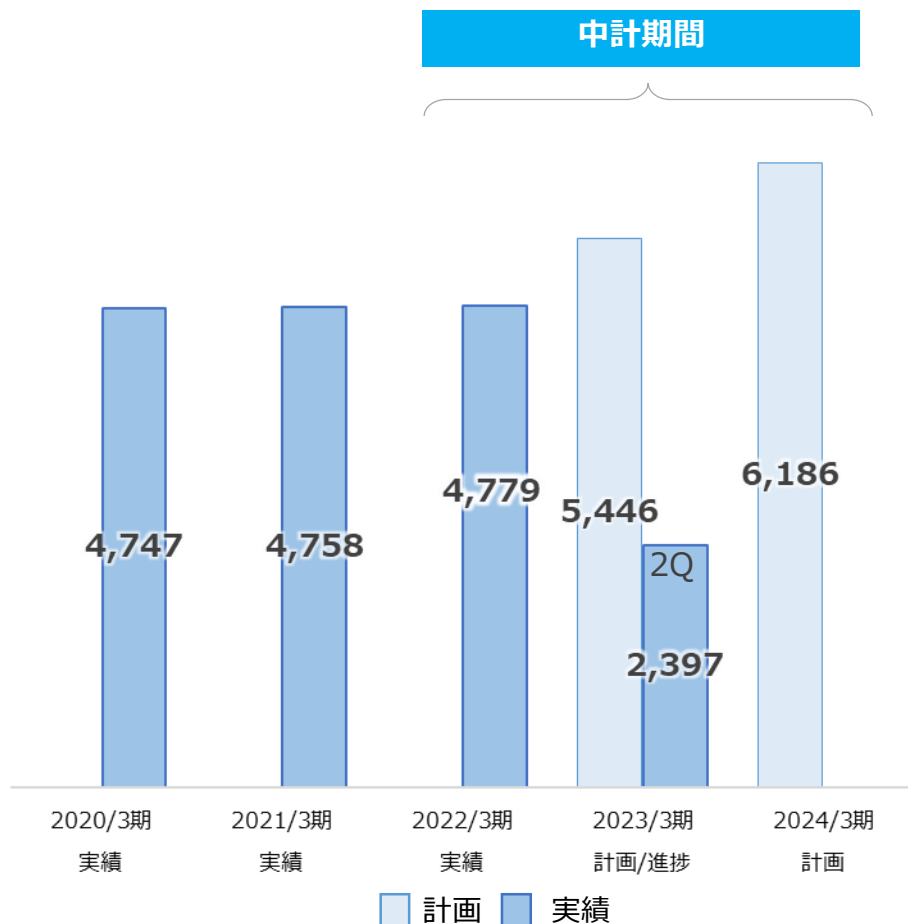
5

## 中期経営計画の進捗

# 中期経営計画 (2021-2023) Jump! 2023

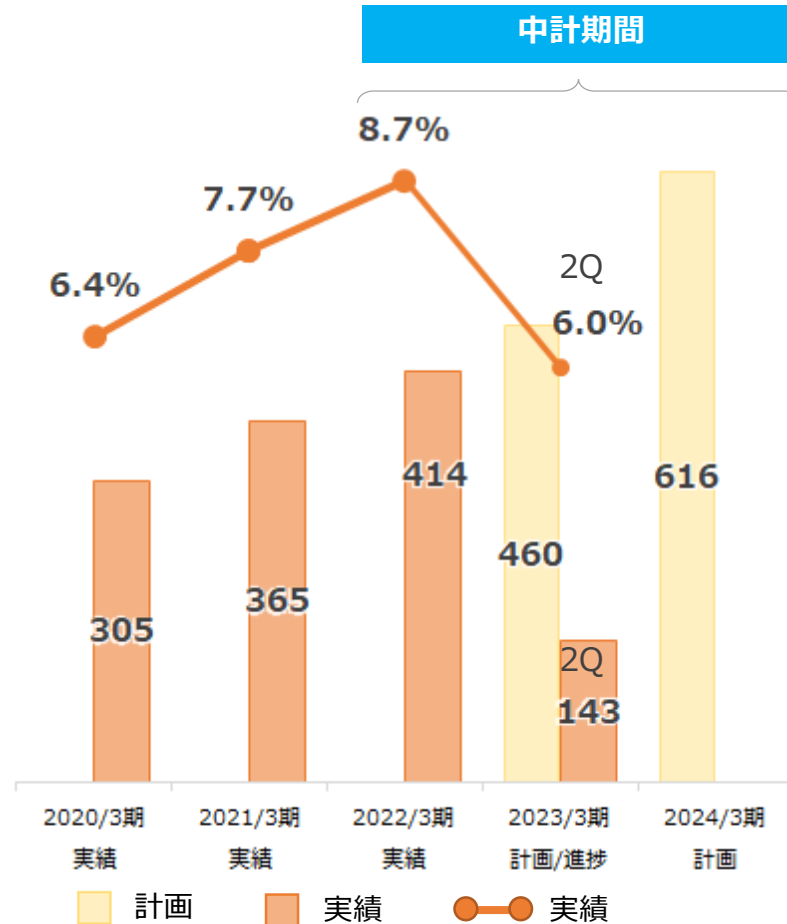
## 売上高 (連結)

2024年3月期目標  
売上高 **6,186** 百万円



## 営業利益・営業利益率 (連結)

2024年3月期目標  
営業利益率 **10** %



# 中期経営計画 (2021-2023) Jump! 2023

## ■ Jump! 2023 (2024年3月期 : 売上高61億円、営業利益率10%目標)



### <戦略投資の目的>

グループ展開力の強化／先進的外部企業との提携強化／ESG経営への挑戦

- (2022/1) HCSホールディングスがデータミックス社に出資
- (2022/5) アイシスがラバブルマーケティンググループ子会社の24-7社と事業提携
- (2022/8) HCSホールディングスがリードプラス社に出資
- (2022/8) ビジー・ビーがLiLz社とクラウドパートナー契約を締結

## IRに関するお問い合わせ先

### 株式会社HCSホールディングス

〒135-0016

東京都江東区東陽二丁目4番38号

TEL : 03-5690-9435 FAX : 03-5690-0081

HP : <https://www.hcs-hd.co.jp/>

**E-mail : [hp\\_contact\\_ir@hcs-hd.co.jp](mailto:hp_contact_ir@hcs-hd.co.jp)**

#### ■ 注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。